



2019年2月14日(木) 18:30~  
 あづみ病院 やまなみホール  
 講演: 「がん免疫療法の過去・現在・未来」  
 講師: 信州大学医学部 小児医学教室  
 教授 中沢 洋三 先生

## 第56回 あづみ病院 地域連携懇話会

今回は、信州大学医学部小児医学教室教授 中沢 洋三 先生 に「がん免疫療法の過去・現在・未来」という演題でご講演いただきました。免疫療法は近年、3大がん治療(手術、薬物、放射線)に次ぐ第4の治療法として期待されています。先生は其中で、いま注目されているCAR-T療法の研究の第一人者です。この療法は患者さんの血液を採取し、その中からT細胞と呼ばれる免疫細胞の遺伝子を分離してがんへの攻撃力を高めるよう操作した後、再び患者さんの体内へ戻す治療です。昨今のテレビや新聞等で目にされている方も多いのではないのでしょうか。白血病・リンパ腫に対する効果が劇的であるなどのメリットがある反面、現段階での治療費が非常に高額なこと(約5,000万円!とのお話です)から、多くの患者さんへの治療が可能になるよう、低コスト化の実現に向け励まれているそうです。普段はなかなか聴くことが出来ない、最新のがん免疫療法について学ぶことが出来ました。

中沢先生のCAR-T療法研究への転機は2006年でした。当時、大学病院で診療していた患者さんで、白血病を再発した12歳の女の子の父親の苦言がきっかけとなったそうです。「この大学病院での治療が最先端だと思ったのに、アメリカだったら治ったかも」。その一言が心に残り、渡米を決意され、翌年2007年にはアメリカ・ヒューストンにおいて遺伝子細胞治療研究に取り組まれたそうです。患者・家族の思いに真摯に向き合い、現在もひたむきに研究に勤しまれている先生のこのエピソードに私は深く感銘を受けました。

次回の懇話会は6月頃を予定しております。大勢の皆様のご参加をお待ちしております。(地域医療連携課・高橋純子)

### 『オープンベッド(開放型病床)のご案内』 <<大北医師会所属の病診連携登録医の先生方へ>>

当院では、2005年より「開放型病院システム運営実施要綱」を定め、「オープンベッド(開放型病床)」の届出をし、運用を行っております。大北医師会所属の登録医に対して、病院の施設・設備を開放し、地域医療連携課を通して、あづみ病院の主治医と連絡を取りながら、共同して入院診察・検査・治療をすることができます。

現在、利用可能な入院ベッドを5ベッドご用意しております。ご希望がありましたら、お気軽に地域医療連携課までご用命、ご相談ください。

患者さんのご紹介等に関するお問い合わせ・ご要望は、地域医療連携課で承っております



北アルプス医療センターあづみ病院 地域医療連携課

TEL(直通) 0261-61-1455 FAX(直通) 0261-61-1456

E-mail [renkei@azumi-ghp.jp](mailto:renkei@azumi-ghp.jp)

受付時間 平日8時30分~17時00分 土曜日8時30分~12時30分(診療日に限ります)

連携室だより

2019年4月発行

JA長野厚生連

北アルプス医療センターあづみ病院 〒399-8695 北安曇郡池田町大字池田 3207-1

編集発行/地域医療連携課

TEL 0261-61-1455

FAX 0261-61-1456

# 連携室だより

北アルプス医療センターあづみ病院 理念

質の高い医療と社会への貢献をとおし、地域の皆さまから信頼される病院を築きます。

通院治療室

Chemotherapy room

緩和ケア

Palliative care

がん相談支援センター

65

April 2019

## CONTENTS

新任医師紹介

あづみ病院認知症疾患医療センター  
認知症を考える講演会

第56回あづみ病院地域連携懇話会



北アルプス医療センター あづみ病院 地域医療連携課

《表紙: 本館 通院治療室・緩和ケア・がん相談支援センター》

# 新任医師紹介



**加賀美 慧帆**

(かがみ さほ)

**泌尿器科**

出身大学  
専門医等  
所属学会

- ◆ 信州大学 (2014年3月卒)
- ◆ 日本泌尿器科学会

◆ 2019年1月より泌尿器科医として赴任して参りました加賀美慧帆と申します。主に女性骨盤底医学を中心として大北地域の医療に貢献できるように励んで参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。趣味と表記してしまつと違和感がありますが、最近、断捨離をしています。もともと部屋の掃除が苦手なのもあり、いざ整理整頓を進めてみると、出るわでるわ不要物。この不要物をどう処分してやるか(使い切り、寄付、捨てる、売る)が意外と面白いのです。そして少しずつすっきりしていく部屋を眺めて達成感を味わう…。皆さまぜひ試してみてください。おすすめです。



**池川 香代子**

(いけがわ かよこ)

**呼吸器内科**

出身大学  
専門医等  
所属学会

- ◆ 福島県立医科大学 (2005年3月卒)
- ◆ 総合内科専門医
- ◆ 呼吸器内科専門医
- ◆ 日本内科学会
- ◆ 日本呼吸器学会
- ◆ 日本アレルギー学会

◆ 4月に着任しました池川香代子と申します。約5年前から松川村に住んでいますが大北地域は自然豊かで、四季折々の北アルプスの姿を望むことが出来る素敵な地域だと思います。この地域で微力ながらお役にたてます様に精進させていただきます。よろしくお願い致します。



**諏訪 学**

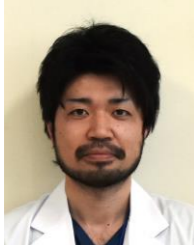
(すわ まなぶ)

**皮膚科**

出身大学  
専門医等  
所属学会

- ◆ 信州大学 (2015年3月卒)
- ◆ 日本皮膚科学会

◆ 2019年度より皮膚科医として着任いたします諏訪と申します。至らない点が多々あると思いますが、よろしくお願い致します。スノードが好きな方がいましたら、お声掛け頂けると幸いです。



**矢島 淳一**

(やじま じゅんいち)

**歯科口腔外科**

出身大学  
専門医等  
所属学会

- ◆ 日本大学歯学部 (2013年3月卒)
- ◆ 日本口腔外科学会
- ◆ 日本口腔科学会
- ◆ 日本口腔腫瘍学会
- ◆ 日本摂食嚥下リハビリテーション学会

◆ 4月で臨床医7年目になります。山梨県出身です。はじめは長野県の冬が非常に厳しく辛かったですが、丸6年長野県に住んで寒さにも慣れてきました。専門は口腔外科・摂食嚥下になります。口腔領域と全身疾患とは密接なつながりがあり、地域の医科歯科連携を行う上で、架け橋になればと思います。至らぬところもあるかと思いますが、よろしくお願い致します。趣味はドラムと麻雀です。学生時代はバンド活動に明け暮れ、何度歯科の道を踏み外しかけたかわかりません(笑)。麻雀は社会人になってからやるようになりました。麻雀は年齢関係なく、気さくに楽しむことができ、素晴らしいコミュニケーションツールだと思います。好きな役はタンヤオ・ドラいっぱいです(笑)。



**田中 健太**

(たなか けんた)

**初期研修医**

出身大学  
専門医等  
所属学会

- ◆ 東海大学 (2018年3月卒)

◆ 4月より研修医として働かせていただく田中健太と申します。2018年3月に東海大学を卒業し、1年間の国家試験浪人生活を経て、ようやく医師になることができました。1年間の浪人生活は心身ともに大変なものでしたが、その分医療現場に対する思いもより強くなりました。この思いを忘れないように貪欲に学んでいきたいと思っています。趣味はスポーツ観戦です。とくにラグビー観戦が好きで、花園、大学ラグビー、トップリーグ、代表戦と幅広く観戦しています。今年はラグビーワールドカップが日本で開催されるので、いまから楽しみにしております。とりとめのない文書となりましたが、2年間よろしくお願い申し上げます。



**政田 啓輔**

(まさだ けいすけ)

**初期研修医**

出身大学  
専門医等  
所属学会

- ◆ 信州大学 (2019年3月卒)

◆ 4月より初期研修医として勤務させて頂く政田啓輔と申します。出身は関西ですが長野県の自然環境に憧れて信州に来ましたので、あづみ病院で医師としての第一歩を踏み出せることに喜びを感じております。また趣味は釣りで、仁科三湖に近く、足を延ばせば日本海にも出られるこの環境を存分に活かしたいと考えています。これから始まる医師生活を通して長野県の医療に貢献できる医師となれるように多くの事を学びたいと思いますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



## 認知症を考える講演会

～住み慣れた地域で安心して老いるために～



2018年11月15日(木) 18:00～  
あづみ病院 やまなみホール  
講演: 8ミリフィルムで回想する昭和の暮らし  
講師: 三好 大輔 先生  
(株)アルプスピクチャーズ代表取締役  
東京芸術大学非常勤講師/大学院専門研究員  
あづみのフィルムアーカイブ代表

今回の講演会では三好大輔先生をお招きして、8ミリフィルム映像の鑑賞が回想法に有効であることなどをご講演いただきました。

三好先生は、全国で家庭で眠っている8ミリフィルムを集めて映像作品にして、昔の暮らしや文化を記録、保存する取り組みをしておられます。フィルム映像は映写機を用いないと鑑賞することができないのですが、三好先生は映像をデータ化しDVDに収めることで誰でも気軽に鑑賞できるよう作品作りを行っています。その活動の一環で、安曇野の生活を記録したDVDも制作されており、今回の講演会では、その映像を使用しながら8ミリフィルム映像の特徴や良さを学び体験しました。8ミリフィルム映像はコマ数が少なく鮮明さには欠け、音声も入っていません。そのため視聴者は自分の過去の経験や思い出から、映像の足りない部分を想像するのだそうです。田植えの映像を見た方が、「田植えの音が聞こえてくるようだ」と話したというエピソードがわたしには印象的でした。そのように想像力をはたかせて観る行為が当時の記憶を呼び起こし感情を豊かにするのだそうです。また、隣にいた人と懐かしさを共有しあったり、世代を超えてコミュニケーションが生まれ、人と人が結びつききっかけにもなるのです。

回想法では、過去の出来事や思い出を語り合ったり、昔なつかしい映像や写真の鑑賞、遊びなどを通して、認知症高齢者の情緒の安定や意欲の向上、表情などの非言語的表現の豊かさの増加、社会的交流の促進などが期待されます。8ミリフィルムの持つ特徴はまさに回想法の手段として有効であるということを実感しました。わたしの所属する精神科作業療法室でも認知症の方のリハビリテーションを行っています。今回使われていた映像なども利用していきながら、認知症高齢者のより良い支援につなげていければと考えています。

(作業療法士・大堀愛美)